

令和 6 年 8 月 13 日

東員町議会 教育民生常任委員会

委員長 三林 浩 様

教育民生常任委員会

広田 久男

研 修 報 告 書

研修期間	令和 6 年 7 月 30 日（火） ～ 7 月 31 日（水）【2 日間】
研修（視察）先	・ 岡山県奈義町（7 月 30 日） ・ 兵庫県明石市（7 月 31 日）
目的（テーマ等）	・ 奈義町；少子化対策について ・ 明石市；子ども医療費の無償化について 中学校給食費の無償化について
資料添付の有無	無

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページに記入すること。

(7/30) 岡山県奈義町～少子化対策

1. 奈義町の概要

- 1) 面積=69.52km² (東西 9km/南北 10km)、人口=5,560 人 (2024. 4. 1 現在)
- 2) 中心部から半径約 2 km圏内に人口の 8 割が定住するコンパクトシティである。
- 3) 自衛隊の日本原駐屯地がある。(行政区(面積)の約 2 割)
- 4) 20 年前から町独自の子育て支援施策を、町民を巻き込んで地域ぐるみで取り組んでいる。また、奈義町の子育て支援施策は合計で 23 事業を行なっている。(略)
- 5) 一般会計総額 45 億円のうち子育て支援策には約 3 億円 (約 7%)

2. 奈義町子育て支援の年表

年 月	主要事業
2004 (H16) 年 4 月	乳幼児及び児童生徒医療給付事業の拡充開始 出産祝い金交付事業開始
2006 (H18) 年 4 月	不妊治療助成事業開始
2007 (H19) 年 4 月	高等学校等就学支援金交付事業開始 なぎチャイルドホーム開設(子育て支援施設) (R2 年度に旧保育園を全面リノベーション)
2012 (H24) 年 4 月	子育て応援宣言 不育治療助成事業開始
2014 (H26) 年 4 月	奨学育英金開始
2016 (H28) 年 4 月	在宅育児支援金交付事業開始
2017 (H29) 年 4 月	しごとコンビニ事業開始
2020 (R 2) 年 4 月	子育て家庭食育支援事業開始
2022 (R 4) 年 4 月	子育て家庭学校教育等支援事業開始
2023 (R 5) 年 6 月	こどもまんなか応援サポーター宣言
2024 (R 6) 年 4 月	こども園・小・中学校給食費完全無償化

3. 所感

- 1) 奈義町の少子化対策(子育て支援策)の特筆すべきところは、
 - ①子育ての負担が軽くなって安心 ……出生から大学卒業まで各種の経済的支援
 - ②子育ての悩みや喜びが共有できて安心 ……多様な地域の人に関わる仕組み
 - ③町のみんなが子育てを応援してくれて安心 ……一時預り、自主保育等
 - ④住むところがあって安心…若者住宅、定住促進住宅、分譲地整備等合計 168 戸
 - ⑤働くことができ安心 ……工業団地整備、起業支援、しごとコンビニ事業上記のような「町の住民みんなで支える」という世代を超えた取り組みが実現して

いるところが素晴らしい。

- 2) 「なぎチャイルドホーム」を現地視察した。ここは子育て世代が気軽に通える施設として開放している。また常駐する「子育てアドバイザー」に育児に関する相談をしたり、ちょっと子どもを預けたいときの一時保育「すまいる」、親同士で協力する保育活動「自主保育たけの子」、高齢者や学生、まちの人たちが気軽に立ち寄り交流する場となっている。
- 3) 奈義町のすごいところはこの 20 年間、人口は減り続けているのに年間の出生数が 50 人前後をずっと維持していることである。
奈義町の子育て世帯の半数以上が子ども 3 人以上の多子世帯である事実が、子育て支援が充実していることが伺える。

(7/31) 兵庫県明石市

1. 明石市の概要

- 1) 面積=49.42km²(東西 15.6km/南北 9.4km)、人口=305,880 人(2023.10.1 現在)
- 2) 神戸市に隣接し、阪神都市圏のベッドタウンとして発展してきた。
- 3) 2000 年代には人口減少した時期もあったが、2013 年を境に人口増加に転じ、11 年連続で増えている。(2012 年=29 万人→2023 年=30.5 万人、1.5 万人増加)
- 4) 「明石市が住みやすいと思う人」は 9 割を超えている。(市民意識調査 2019 より)
- 5) 人口増加に転換した一番の要因は、2011 年に市長に就任した泉房穂氏の掲げた「子どもを核としたまちづくり」である。とりわけ、①所得制限なしで実施する高校 3 年生までの医療費無料化、②第 2 子以降の保育料無料化、③中学校の給食費無料化、④オムツの無料配達(0 歳児見守り訪問)、⑤公共施設利用の無料化、の「5 つの無料化」の実現など“子どもを本気で応援する”政策が、子育て世帯の支持を得て、移住を大きく促した。
※今回の視察研修は、①所得制限なしで実施する高校 3 年生までの医療費無料化と③中学校の給食費無料化の 2 点について行なった。

2. 高校 3 年生までの医療費無料化について

- 1) H25(2013)年 7 月から中学 3 年生まで、R3 年 7 月から高校 3 年生まで医療費の無料化を実施。
- 2) 市独自の医療費助成額は R4 年度決算ベースで 11 億 3 千万円、財源は一般会計から捻出しているそうである。

3. 中学校給食の無償化について

- 1) R2(2020)年から中学校給食の無償化を実施。
- 2) R6 年度中学校給食無償化 対象生徒数見込=6,400 人、事業費=3 億 4 千 5 百万円
- 3) 明石市では H28 年から市の財源で保育料無償化を実施していたが、R1 年 10 月から

国の幼児教育・保育の無償化が開始された。それによって、軽減された市の財政負担額 7 億 5 千万円の一部を中学校給食費無償化に充当している。

- 4) なお、小学校の給食費無償化については、年間 9 億円が必要になり、その財源確保が課題とのこと。「国の無償化動向を注視してゆきたい」とのことであった。

4. 所感

- 1) 前泉市長はトップダウンでどんどん市政改革を推進していったようである。職員の説明から伝わってきた。
- 2) 2011 年以降、公共事業の見直しを図り、下水道事業予算を 600 億円から 150 億円に削減するほか、市営住宅新設取りやめなど業務の見直しや、専門職の活用による人件費圧縮など予算のやりくりで、泉市長の就任当初 126 億円だった子ども関連予算は現在では約 258 億円と 2 倍以上に増額させている。
- 3) さらに泉市長は組織人事改革を行い、子ども政策にかかわる担当職員を就任時の約 3 倍にしている。
- 4) 建設業界、市職員などには相当の反発があったと思うが、有言実行、つまり、「周りを全員敵に回しても実行する」覚悟をもって推進した結果であると思う。
- 5) 子育て支援政策が実績を上げて、市民から圧倒的な支持を得るようになったことで、市政・財政・経済などでも好循環をもたらしているようである。
見習いたい点を多々感じた視察研修でした。

以上